特集／現在に語り継ぐ…　地域の得手前な人発掘調査
町丑人ポット／区長さん紹介　春季消防演習
大能林で大規模な地滑り発生　ほか
カメラさん紹介／朝日町成人式
まちの話題／浮嶋稲荷神社例大祭　国道沿いに産廃施設
りんごの母オーナー制開園式　ほか

勇壮な大獅子に興奮

豊能神社祭礼
（5月3日：宮宿地内）

広報 あさひまち

2006年5月号
No. 594

暮らしの得手前楽習会祭で「うさぎ汁」「手作りこんにゃく」「りんご寿司」が振る舞われた（３月26日／創遊館）

特集◐現在に語り継ぐ…　地域の得手前な人発掘調査

これからの地域を元気にする源
先人たちの暮らしを支えてきた知恵と技

本人にとっては日々の暮らしを支える一手段であり、ごく当たり前のことではあっても、それが先人の知恵や技を引き継ぐ名人技に値するようなものであることがよくあります。そしてそれらは、この地域でより快適な生活をしていくため、この地域だけに必然的に生まれたものであり、人々の生活に密着したものと言えます。

しかし、それも時の流れとともにいつしか忘れ去られてしまい、ものによっては、永久に再現ができなくなってしまう可能性のあるものが、この町にはたくさん存在します。その名人技をあえて「得手前」と表現し、改めてこれらに光を当て記録に残していこうという試みが、ＮＰＯと行政の協働により進められ、その成果がこのたび報告されました。

広報あさひまち４月号の「まちの話題」でも紹介した暮らしの得手前楽習祭。今回の特集では、先人たちの知恵や技あるいはそれを今に引き継ぐ方々を紹介します。

このままだと消滅する！　先人たちの知恵と技
（調査に至るまでの経緯）

手に支えると書いて「技」と読む。日々の生活を支えるため、先人たちが生み出した知恵や技は数多く存在します。今に生きる私たちがそれを伝承することで、楽しく豊かな生活を送るための礎となってきたことは、誰もが認めることではないでしょうか。

しかし近年にあっては、それらの知恵や技も、目まぐるしく変化する社会の中で伝承されることなく、消滅しつつあるのが実情です。

これからの住みよい町づくりの源になるのは、今の暮らしに無理なく取り入れることができるもの。気付くところそれは、その地域が育んだ先人の知恵と技。そして、限りない自然の力なのかもしれません。今に生きる私たちには、そんな先人たちの貴重な知恵や技を、後世に守り伝えていく義務があります。

そんなところに着目し、私たちＮＰＯ（特定非営利活動法人）朝日町エコミュージア

ム協会（長岡信悦理事長）は、行政との協働による取り組みで、日本財団による助成と東北芸術工科大学東北文化研究センターの飯田恭子氏の協力をいただきながら、得手前な人の発掘調査を実施することになりました。その調査結果を発表し合ったのが、去る三月二十六日に創遊館で開催した「暮らしの得手前楽習祭」。

まだまだ調査内容が不十分なところはありますが、今回ここで報告させていただく得手前なことが、今後の町づくりに何かしらのヒントを投げかけられるなら幸いです。

【暮らしの得手前してみっかい代表　五十嵐武喜】

得手前 その1
冬のタンパク源 うさぎ汁を再現

◇得手前な人
高橋道子さん（水本）

◇調査内容
昭和五十年前後までは、ほとんどの家で食用のうさぎを飼育していた。夏場に草やくず米などで育て、うさぎの皮の商売をしている職人が正月前にさばいてくれた。

うさぎは、肉とどんがらに分けられ、大皿に盛られたうさぎの肉は、ひと冬食する保存食として醤油や味噌で煮込まれる。お客様が来た時のお汁やそばのタレ、酒のつまみなど、冬のタンパク源として重宝された。

現代風にアレンジさせた部分もあるが、今では昔の食べ物となってしまった「うさぎ汁」を、具沢山の汁に羽二重もち入り味噌仕立て（2ページ上写真右手前がうさぎ汁）にして再現していただいた。

その他に再現していただいたものが、肉と骨を丁寧にたたいて丸めた「うさぎのタタキだんご」「うさぎ肉の酒のつまみ」「りんごエキス仕立てに煮たもの」「どぶろく漬け」「あんこんりん（デザート）」など。

【調査員　菅井正人】

得手前 その2
町内外で指導 こんにゃくづくり

◇得手前な人
松田　操さん（栄町）

◇調査内容
現在の立木集落の北部（大江町との境）に位置する荒沢在住の頃は、基本的に自給自足の生活。冬期間の食料としてこんにゃく芋を栽培していた。お姑さんと一緒にこんにゃくをつくり、刺身や煮物として食べていた。昭和四十七年、今の住まいである栄町に引っ越してきてからは、全くこんにゃくづくりをすることはなく、月日の経過とともに次第に作り方も記憶から薄れていった。

ところがある日、近所の方からこんにゃく芋の種芋をもらったことで再び養成を始めることになった。薄れていた記憶をたどり、試行錯誤しながらレシピを完成させた。

◇作り方
○準備するもの　大きめの鍋2、ボール1、計量カップ、はかり、ゴム手袋、木べら、ミキサー
○分量　こんにゃく芋1キログラム、水3，000cc、精製ソーダ35グラム、ソーダを溶かすお湯150cc
①ソーダは先に溶かしておく。
②こんにゃく芋は皮をむき2センチくらいの厚さに切り柔らかく煮る。
③分量の水を使ってミキサーにかける。
④ミキサーにかけたこんにゃく芋はボール（または鍋）に入れ良くかき混ぜる。三～五分おいてからソーダを入れ、さらに良くかき混ぜる。
⑤先に鍋に湯を沸かしておき、煮立っている中に小判型に丸めて入れる。二十分ぐらい煮たら水をいれて二、三回水を取り替えればできあがり。

中央が４年間養成した芋（直径約25㎝）

【調査員　橋間友則・岡崎国宏】

得手前 その3
癌をも克服 野菜づくり（有機農業）

◇得手前な人
渡辺常代さん（元町）

◇調査内容
一九九五年に夫の幸栄さんが肝癌になり、医師より半年の命と宣告された。無農薬野菜を食べさせて元気を取り戻させなければ親（幸栄さんの母親）に申し訳ないと思い、有機農法による野菜づくりと食事づくりに本気になって取り組み始めた。その結果、幸栄さんは今でも元気である。

肥料は、十年前に講習を受けたボカシ作りを守り、現在も使っている。ボカシとは、EM菌と糖蜜、米糠、籾殻をまぜて作ったもの。それをそのまま肥料にしたり、それを

つかって堆肥をつくる。

生ゴミ、草、わら、落葉等を積み上げ、その段の途中途中にボカシを振り入れると、発酵して、良質の堆肥ができる。また、コンポストにボカシを入れても、異臭がなく良い堆肥ができる。

畑の畝（うね）をスコップで深く掘り、できた堆肥をそこにいれてから種を蒔いたり、苗を植えたりする。土中に深く入れる方が良いようだ。畑にはミミズがいるが、これは土壌の微生物がたくさんいるということで、とても良い土になっている証拠である。

農薬は全く使っていない。ボカシの堆肥を使っているため、地力が出てきて良い野菜ができる。少々の虫食いは人間と虫の共存で許し合える。

【調査員　関口島子】

窯出しの様子【写真提供：高橋呼雪さん（山形市）】

得手前 その4

65年以上の超ベテラン木炭づくり

◇得手前な人

高橋熊次郎さん（水本）

◇調査内容

十四歳の頃より、父（敬次郎）から製炭方法を習い、一昨年の冬（八十歳）まで、六十五年以上炭焼きをしてきた。

製炭技術一般について、聞きたいことがたくさんあった。しかし、高橋さんもご高齢ということで、嗅視覚による判断など技術面や経験上からのコツやポイントをしぼった指導に限られた。具体的な技術習得の際は、実技可能な成人技能者か見習いが必要である。

今後の課題や可能性などについては次のとおり。

①新規の窯造りは、労力や経費がかかるほか設置場所も限定されることから、窯の確保が困難である。

②伐（き）り出しや搬送などの面で、原木（楢材）の確保が困難である。

③借用既設窯（元農業研究所隣接の窯や水本の借地にある熊次郎氏最後の窯跡）の補修、屋根掛などにも経費と労力がかかる。

④次世代の技術保持者として、四ノ沢地区に石塚勝彦氏が在住。【調査員　五十嵐武喜】

得手前 その5

語り継ぐ若き日記憶の再現

◇得手前な人

堀　惣次郎さん（舟渡）

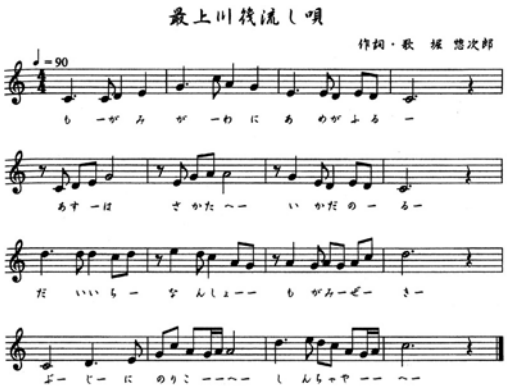
◇調査内容

これまでの生活状況や技（仕事）の記憶が鮮明な方で、こちらも関心を持って聞き取りによる調査ができた。

更に、記憶をたどりながらの絵や文章、会話による表現がうまい。特に、父親やその仲間とともに働いた筏流しの状況や、その難所・名所を絵図面に記したこと（5ページ上図）、筏流しの情景を思い浮かべて「最上川筏流し唄（下楽譜）」を自ら作詞・作曲したこと、中国出兵当時の経路や戦歴などを絵図面に記したことなど、自らの生きた証として明確に記していることがすばらしい。近所の方へは事あるごとに口伝、絵図面を見せて当時の暮らしを伝えている。更には当時のことに思いを寄せる人たちの尋ねや訪問に対しても、快く応じている。

少年時代から青・壮年時代当時に、親や先輩から引き継いだ技や文化を現代に語り継ぐ貴重な人財。

【調査員　菅井正人・飯田恭子・阿部忠之】



得手前 その6

川干し 春の山遊び

【写真上】堀惣一郎さんが作詞した最上川筏流し唄
（平成９年６月２７日作成）
【写真中】絵図面に記した筏流しの詳細
明鏡橋から酒田までの舟運について、こと細かに記されている　（平成８年１２月２８日作成）
【写真左】絵図面に記した筏流しの難所

◇得手前な人

清野孝一郎さん（送橋）

◇調査内容

○川干し

夏の日、送橋川での遊び。瀬になり広くなっている箇所に石と草等を使ってやや大きめの池のようなものを作る。その池の水をふんどし一丁の姿で、井戸掘（か）きの要領で干してゆく。

やがて、岸辺の草が大きく垂れ下がるようになると、魚の背中が見えてくる。掻き出す動きも早くなり、喉（のど）もカラカラになってくる。一番低い所の水の底に魚が集まる。この時が最も興奮するため、気が揉（も）んで「かぶだれ」をする者が出てくる。それを尻目に魚を捕まえ篭に投げ入れる。

楽しかった夏の思い出だ。

○春の山遊び

昔の遊びだが、今もやっている春の山遊び。

村のみんなに山遊びのことを連絡。当日の役割分担を決め、村で一番高い高森山か村を一望できる田の頭の古峰神社に歩いて登り、途中の旧道の由来や清水・種まきこぶし等をお年寄りから聞きながら進む。中でも、館山にあった城のお姫様「弥生姫」が紅葉狩りに来た伝説のある「緋の沢」の話に興味があった。

そんな話を聞きながら頂上に着くと、別働隊が朝から準備していた昼の宴が始まる。

昼の宴は、山菜をふんだんに入れたいるか（いれか）汁とにしん汁。途中採って来た山菜をその場で天ぷらにして振る舞う。子どもたちは自家製のりんごジュース、大人はビールに日本酒を注ぎ込み、つらかった冬の話や四方山（よもやま）話に花を咲かせる。帰りはポカポカ陽気の中をゆっくりと下ってくる。

段取りを含め三日間の春の山遊びが終了する。

古峰神社での記念撮影

【調査員　菅井正人】

得手前 その７
ガマの葉を編む はけご作り

◇得手前な人

・全体　阿部正二さん（立木）

・はけご作り　阿部惣一郎さん（西町）

◇調査内容

○ガマの葉について

ガマを得手前な人は、「ガバ」と呼ぶ。湿り気の多い土壌を好み群落。民話「因幡（いなば）の白兎（しろうさぎ）」にでてくる治療薬で、穂は熟するとフランクフルトのようになる。今は山間のやや冷たい水のかかる休耕田に繁茂し、草丈は二メートル以上になる。そのうち細工物に使用する箇所は、地面から一メートルまでのスポンジ状になっている部分。

ガマの葉は、お盆前に刈り取り、日差しの強い夏場にカ

ラッと乾燥させる必要がある。お盆を過ぎると葉は固くなり、乾燥させても色が悪い。あまり早く刈り取ると、カビ発生の原因になる。また、横糸に使用する「おっかの木」瓜肌（うりはだ）楓（かえで）は、梅雨間に伐採しないと皮状にうまく採れない。

何事にも適期というものがあり、自然からの恵みをいただく智恵をしっかりと持っている。得手前人であることを感じさせる一面だ。

○はけごについて

最近ビニール製の物が多くなったはけご。半世紀ほど前は、稲藁を使用したものが主流だった。ガマやブドウ蔓（つる）を使用するのはハンドバックタイプの化粧はけごに多かった。普段、農作業や山仕事に使用するはけごは、リックのように背負うもの。形や大きさは様々だ。最も大きなものに、桑の葉を運搬する時に使う「ばかはけご」というものがある。背負う時に「にな」というロープを使い、足元のよくない道を一歩ずつ下って来た経験を持つ高齢者は少なくない。

山採りのガマの葉・ブドウ蔓・アケビ蔓等は、西川の大井沢村や本郷の柳川村から伝わった経過あり。阿部正二氏も大井沢生まれ。阿部惣一郎氏は、柳川の親戚からブドウ蔓の細工を習ったという阿部惣吉氏のご子息。はけごだけではなく、農作業で頭にかぶるものや脛（すね）につける脛巾（はばき）なども、ガマの葉で作り使用していた。

○ガマの葉を編む

父親から習った技術を今でも実践している阿部惣一郎氏に、はけご作りをお願いした。今回は、生徒十人程に手ほどきをしてくれた。

ガマの葉を編む阿部惣一郎氏（右）

一本又一本編み込むことの繰り返しと、曲げる箇所の技や入り口の形づくりを見ていると、独特な時間がゆっくり流れていることに気が付く。「この流れに合うものは？」と思い浮かべたところ、いろりの火と手料理がそれにぴったしだ。熟練した阿部氏の技は、家族や仲間との語らい、そしていろり端での楽しい料理や懐かしい生活シーンを思い起こさせてくれる。

【調査員　菅井正人】

得手前 その8
山の暮らしで得たはんど流しと鯉の蕎麦汁

◇得手前な人

長岡正昭さん（曲渕）

◇調査内容

長岡正昭氏は昭和一桁生まれ。林家に育ったため、山の暮らしに得手前な人である。

父親が林業に関する事業を行っていたこともあり戦前の山仕事に詳しく、本人も炭焼き・伐採作業や山菜採りの経験を豊富に持っている。

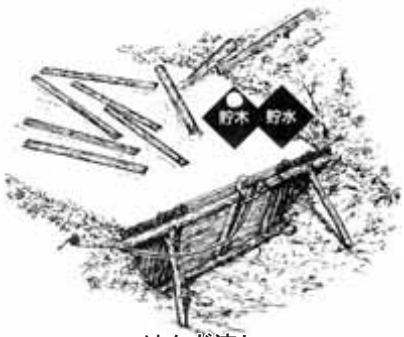
○はんど流し

はんど流しは、木材の流送手段の一つで、水量の少ない沢筋の搬出に適した方法。木材の損傷が少なく大量搬出が可能なため、昭和初期まで盛んに行われていた。

一ツ沢の山は曲渕同様に杉の成長が良いため、良質な木材が取れた。伐採し小集めされ橇（ソリ）出しされた後「はんど流し」にかけ朝日川まで下した。朝日川からは木流しの流送で太郎橋付近まで流し、川から揚げて馬車につけて製材所に届けるか、太郎橋では揚げないで最上川まで木流しを行い、後は筏師に渡す場合もあったと言う。

作業は地元の人が行うが、木材の買い付けは山形市や酒田市の業者等が実施。それを伐採、運搬、筏師等の作業毎に、地元の業者が業務を請け負っていた。しかし、はんど流し等の木流し全般は、専門の「木流し衆」という集団がいたものと思われる。

実際に正昭氏の奥さん光子さんが小学校の時分に栗拾いに言った時に、はんど流しのものすごい音とすごい速さで流れる木材を見ている。



はんど流し

○山の水で育てた鯉を使った蕎麦汁（そば）

山から暮らしに必要なものは米以外ほとんど採れ、その中でも貴重なものに飲料水がある。井戸の下に小さな池があり、そこには鯉を始めとする魚が飼われている。

蕎麦は普段に食され、蕎麦切りのほかにかいもちや水団（すいとん）などがあった。鯉の蕎麦汁は蕎麦切りを食べる時のもの。作り方は、鯉を輪切りにして頭と尻尾の部分を煮込み、ゆっくりとダシを取り出す。山鳥のダシにはかなわないものの

たいへん美味しかった。
胴腹の部分は、醤油と甘味で煮詰めて照りを付け、お客様に出した。
【調査員　菅井正人】

得手前 その9
防腐剤や塗料に使用する柿渋（豆ちょ柿）

◇得手前な人
長岡　啓さん（西町）

◇調査内容
全てのものに安心・安全が叫ばれる時代となった今日。本物を求めて、先人の素晴らしい知恵と技を体験してみた。
○柿渋の用途
木材、紙、うちわ、からかさ、電灯の傘などの防腐剤や塗料として使う。うるし塗りの下地には欠かせない。
まず、柿渋（豆ちょ柿）に注目してみた。全てが初めての体験であり、様々な情報を集め勉強を重ねながら作業を進めた。二年目にしてそれらしい「柿渋」ができたが、課題も残っている。
また嬉しく思うのは、素材である渋柿が町内の各所に残っていること。
○製造過程
①素材の渋柿（豆ちょ柿）は八月二十日から八月末までの暑い時期に採取する。渋柿15キログラムを潰すか傷をつけて桶に入れ、押し蓋をして水を入れる。水は地下水などの生きた流水を柿の表面まで加える。ここまで一日のうちに終えてしまうこと。
②三日すると発酵がはじまる。発酵の状況によるが十日間ぐらいで取り出して万力でしぼる。きれいに濾したものをビンに入れて保存する。
【調査員
菅井正人・登坂高典】

得手前 その10
古槙に多い時には五軒あった和紙づくり

◇得手前な人
清野よし子さん（古槙）

◇調査内容
よし子さんの夫である安一さんが、主に和紙づくりを冬仕事でしていた。よし子さんも手伝いをしていたが、漉き方は一年しかしていないということであった。安一さんの母親がしていたという和紙づくり。しかし、実際にどこから伝承されたかは不明。
古槙では、多い時には五軒ぐらいの家で和紙づくりをしていた。材料はコウゾを使用していたが、家の付近に植えてあるもののほか、八ツ沼などの西五百川方面から購入しソリ等で運んでいた。完成した和紙は主に障子紙として使われ、直接宮宿の商店に納品していたとのこと。昭和四十一年まで行っていたが、その後行われていない。
○製造過程
コウゾを60センチ程度の長さに切る→桶をかぶせて半日ぐらい蒸す→暖かいうちに皮を剥ぐ→村の人に剥ぎ取った皮を預け黒い表皮を削ぎとる作業を委託する→回収した内皮（白い部分）を煮る→すりこぎ棒より大き目の棒で叩く（家族みんなで）→水を張った舟に入れる→目の粗い布に入れて水分を飛ばす→水にニレの根を加工したものを入れた紙漉き用の舟に入れる→紙を漉く→漉いた紙を取りやすいようにクグ（草）をはさみこんで重ねる→万力で水分を搾る→厚手のトタン状のものに貼る→下から水蒸気を当てて乾かす→周囲の部分を切り揃える→枚数を二十枚ぐらいに束ね出荷する。
【調査員
関口俊邦・橋間友則】

得手前楽習祭　記念講演

郷土学がまちを元気にする「食べて保全」

東北芸術工科大学東北文化研究センター
研究員　飯　田　恭　子　さん

ドイツのロエン地方。以前からロエン羊の放牧が盛んなところだが、食肉の主流が牛、豚、鶏になった時、採算性の低いロエン羊は絶滅寸前まで追い込まれた。放牧地も背丈の高い草が生い茂り森へと変わりつつあった。
ところが、そこに住む住民は「自分たちがこれまで住んできた町の本来あるべき姿はいったい何なのか？うっそうと生い茂った森の姿なのか？」を考えた。そして、放牧地の貴重さとこの放牧地を維持していく上で、実はロエン羊の絶対的な必要性に気付く。種を保存していくためには、羊にとっても食べられることが必要。
つまり、その地域の人たちが忘れてしまった食べ物をもう一度発見し、それを地域の中で食べながら保存、循環させていくという取り組み。それが「食べて保全」という活動だ。
そこに住む人がそこにあるものを使ったり食べたりすることで、自然や人の営みが長年続いてきたことを私たちは忘れている。
今回報告された先人たちの得手前な知恵や技。それら全てが、自然の中で生きるために必要なことであり、自然を用い自然に生かされる関係にある。そして、それを引き継いでいくということを、私たち人間が自然の中で生きていく上で忘れてはならない。

住民と行政をつなぐパイプ役　55人の区長さん

平成18年度の区長さんを紹介します

※緑文字は新しい区長さん

※世帯数は、平成18年５月１日現在のその区内に存する法人や会社等を含む数であり、お知らせ板等の通常の発送数です。

■中部地区【25区】

区名	氏名	世帯数
本町	鈴木敬二	87
西町	阿部勝男	114
栄町	多田賢司	68
助ノ巻	鈴木俊一	53
大町	布施　寛	149
元町	鈴木俊一	63
西原	阿部今朝夫	23
前田沢	渡辺隆生	71
新宿	熊谷長一	62
四ノ沢	伊藤丈雄	60
小原	菅井勝良	42
宿	佐藤勝英	37
沼向	鈴木勝昭	56
平	鈴木　博	16
大隅	菅井　博	32
古槙	渡辺定雄	28
送橋	渡辺吉助	36
下芦沢	岡崎源吉	28
水本	土屋治男	25
杉山	藤沢盛治	30
松原	安藤紀久雄	36
宇津野	佐竹勝男	43
大滝	柴田昭義	24
雪谷	鈴木喜美夫	14
緑町	渡辺秀雄	41

■西部地区【16区】

区名	氏名	世帯数
常盤	阿部健一	104
夏草	阿部美喜雄	55
長沼	阿部　悟	20
西船渡	海野正基	48
八ツ沼	佐竹正二	43
能中	海野利昭	38
高田	佐竹庄吉	15
太郎一	大高祐一	54
太郎二	長岡　稔	40
太郎三	阿部保太郎	25
石須部	長岡誠雄	12
立木	古川征一	41
白倉	渡辺友吉	10
松程	阿部和夫	105
大船木	佐藤幸信	23
今平	阿部正敏	15

■北部地区【14区】

区名	氏名	世帯数
大谷一	長岡秀一	35
大谷二	畑　俊美	38
大谷三	川村直美	39
大谷四	佐藤國雄	30
大谷五	白田忠夫	80
大谷六	白井淑浩	44
大谷七	小野恒雄	13
中沢	堀　義雄	40
真中	堀　治郎吉	40
舟渡	堀　義三郎	29
栗木沢	志藤正雄	90
川通	志藤信勝	18
大暮山	渋谷一俊	36
大沼	小林直廣	32

町政スポット①

春季定例会開催

町内五十五集落の区長さん方が一堂に会しての町区長会春季定例会が四月二十七日、開発センターホールで開催されました。

その中で、町区長会の役員（任期＝平成十八年四月一日～平成二十年三月三十一日）として、町内三地区の区長会長を含む十四人（中部六人、西部四人、北部四人）の評議員の互選により、多田賢司中部地区区長会長（栄町）が会長の職に、長岡稔西部地区区長会長（太郎二）と志藤正雄北部地区区長会長（栗木沢）の両名が副会長の職に、事前に開催された評議員会の中で決定された旨の報告がなされました。

さらに監事として、海野正基西船渡区長と渋谷一俊大暮山区長の両名が、それぞれ選出されました。

この三月末日をもって退職された二十三人の方には、町から自治功労賞（在職６年以上）及び感謝状（在職６年未満）が贈られました。自治功労賞を受賞されたみなさんは、次の方々です。

●自治功労賞受賞者（敬称略）

長岡米吉（常　盤・12年）
鈴木今治（今　平・12年）
齋藤利八（夏　草・７年）
鈴木正己（松　程・６年10ヵ月）
白田誠一（宿　・６年）

朝日町スポーツ振興基金

平成十七年度は、予算額１８８万３，０００円（資本金３，１１０万円）で運用させていただきました。

主な活用は次のとおりですが、平成十八年度も競技スポーツ選手の育成強化及びスポーツ指導者の育成などで基金の運用を図っていきます。

なお、全国並びに国際大会（東北大会は今年度から対象外）出場激励金については、大会出場が決定次第すみやかに、町教育委員会教育文化課生涯学習係（☎６７-２１１８）までお知らせください。出場者本人の申し出が困難な場合は、関係者や関係団体のご協力をお願いいたします。

【平成十七年度の実績】

●町体育協会事業運営委託料……９５万円
●町民駅伝競走大会出場報償……３０万円
●全国・東北大会出場激励金（３団体31個人）……５９万円

町民の生命と財産は私たち消防団員が守ります！

春季消防演習

平成18年度の春季消防演習が４月23日、朝日中学校グラウンドを主会場に開催されました。地域のみなさんに安心した日々の生活を送っていただこうと、日頃の練習の成果を披露する消防の祭典です。

370人の団員を前に柴田団長が「日頃から我々消防団に寄せる住民の期待は大きい。最後まで気を抜くことなく、堂々とした訓練を町民の方々に見せていただきたい」と訓示。その後、小隊訓練や積載車、可搬ポンプ、自動車ポンプによる模範操法が披露されました。

全車輌隊出動による実火災を想定しての火災防御訓練、町内３保育園による幼年消防クラブ行進や、消防団員の堂々とした分列行進に、沿道に詰めかけた町民からは、盛んな声援が送られていました。

なお、主な表彰者は次のとおりです。

山形県知事表彰

▼永年勤続功労章　鈴木義昭（大暮山）

消防庁長官表彰

▼金条章　第二分団第一部（太郎・石須部・立木・白倉）

▼特別功労章　吉田好伸（本町）相座正行（送橋）

▼功労章　成原広昭（前田沢）大竹史之（大隅）安藤克幸（松原）阿部信治（八ツ沼）阿部孝晴（松程）

▼功績章　阿部秀紀（常盤）長岡啓一（大谷一）白田幸男（大沼）滝川芳巳（本町）齋藤広治（大滝）阿部清信（立木）布施哲也（松程）志藤靖則（能中）

▼精錬章　長岡和彦（太郎一）阿部勝彦（西町）大竹明英（大隅）岡崎洋（下芦沢）齋藤裕幸（太郎二）田川栄樹（八ツ沼）長岡茂友（常盤）早坂健一（大谷五）五十嵐敦（中沢）武田直樹（真中）志藤一彦（川通）

▼家族功労賞　鈴木正子（大暮山）

▼永年勤続退団者　長岡文雄（太郎一）阿部憲幸（立木）佐竹登喜善（立木）白田光博（常盤）阿部正好（今平）鈴木茂（今平）小松正明（大暮山）

朝日町長表彰

▼優良消防部第一位　第三分団第二部（大暮山・大沼）

日本消防協会長表彰

▼功績章　白田敏男（大谷四）

▼精績章　白田淳一（大谷三）

以上敬称略

平成18年度体制（緑文字は異動者）

団長　柴田七郎兵衛（大町）

副団長　高橋久仁彦（大町）

本部付分団長　松尾芳明（松原）
〃　鈴木義昭（大暮山）
同副分団長　長岡秀典（栄町）
〃　長岡秀昭（前田沢）
〃　長岡啓一（大谷一）
〃　長岡和彦（太郎一）

第一分団長　浅岡清二郎（西町）
同副分団長　高坂秀幸（大町）
一の一部長　吉田好伸（本町）
一の二部長　安孫子宏栄（前田沢）
一の三部長　白田潔（宿）
一の四部長　相座正行（送橋）
一の五部長　安藤克幸（松原）

第二分団長　佐竹亮一（松程）
同副分団長　阿部富士男（八ツ沼）
二の一部長　長岡孝二（太郎一）
二の二部長　布施哲也（松程）
二の三部長　志藤靖則（能中）
二の四部長　長岡茂友（常盤）

第三分団長　白田淳一（大谷三）
同副分団長　小林晴雄（大沼）
三の一部長　早坂健一（大谷五）
三の二部長　白田幸男（大沼）
三の三部長　五十嵐敦（中沢）
三の四部長　白田洋平（栗木沢）

役場消防部長　鈴木勝（西船渡）

大規模な地滑り発生（4月7日未明の大船木地内）

路面には亀裂が入っている（現場から白鷹方面に向かって撮影）

生活路が完全に崩落（現場から松程方面に向かって撮影）

主要地方道長井大江線が走る大船木地内で、４月７日未明に地滑り災害が発生。災害規模は、町にとって近年にない大規模なもので、縦100メートル、横130メートル、深さ25メートルにわたり崩れ落ちた土砂が、側を流れる最上川の川幅３分の１にまで達しました。２車線の車道も約80メートルに渡って完全に崩落し、24戸ある大船木の集落は南北（大船木地区20戸と大淀地区４戸）に分断。唯一の生活道となる県道の寸断で互いに行き来ができなくなっており、地区民たちは不便な生活を強いられています。

今から約100年前（明治39年）にも、大規模な地滑りが発生しているというこの地。災害発生後、町では、緊急に関係各課長を含めた対策会議を開催。地区民たちの不安解消と生活の維持に向けた対応策の検討に入りました。

道路に亀裂が発見されたのが３月23日。その後監視を続け亀裂の拡大を確認し、全面通行止めにしたのが崩落直前となる４月６日。幸いにして被害に巻き込まれた人はいませんでした。併せて、法面保護工事のためそれ以前から通行止めとなっていた松程・大船木間を、急きょ迂回路として片側交互通行させることで住民の生活路を確保しています。４月18日には、町長を始め役場の関係職員が大船木公民館を訪れ、現場の状況と今後の対応策などについて説明。地区民たちは、今後の対応策に耳を傾けていました。

現場は現在、農耕者以外の一般者の立ち入りを禁止していますが、その後、土砂等の動きに大きな変化はありません。河川に流出した土砂の浸食を防ぐための工事や河川管理用道路などの工事が行われているほか、ボーリング調査の解析結果に基づく地滑り対策と道路の復旧工法などについて、国土交通省や県による検討がなされています。

一日も早い生活道路の復旧に向けて、今後も町は、地区と連携しながら関係各機関に強く働きかけをしていきます。

状況と対応策の説明会(4月18日)

地域を元気にする活動に「志藤六郎村おこし基金」を！

上川原山ノ神遺跡石碑(舟渡)

（単位：円）

申請者	代表者	事業内容	総事業費	補助額
宮宿中央通り商業振興会	伊藤吉正（大町）	七夕飾り・イルミネーション	1,054,550	800,000
大谷三区	区長　川村直美	風神太鼓保存会衣装整備	426,400	341,000
舟渡区	区長　遠藤邦昭	上川原山ノ神遺跡石碑建立	940,000	752,000
合計			2,420,950	1,893,000

※基金を取り崩しての補助であり、平成18年３月末現在の基金残高は83,833,000円となっています。

平成17年度の志藤六郎村おこし基金を活用した補助事業は上記の３件で、合わせて189万3,000円の補助金が交付されました。

平成18年度も同様、５月16日発行のお知らせ板等で事業を募集します。町民で組織する団体やグループ、町に住所を有する企業や個人などで、町や地域が元気になるようなチャレンジ活動をお待ちしています。なお、今年度の予算総額は300万円です。

問 政策推進課定住対策係
☎６７－２１１２

町長歳時記（10）

生きる時間とは…

「椹平の棚田をぜひ訪問したい」という強い意向で、㈱ＪＴＢの船山龍二会長が五月五日、当町を訪問されました。当日は晴れてはいましたが風が強く、遠く山々の間から見える朝日岳は春霞に霞んでいました。

会長共々一本松公園に上ったところ、強風にさらされながらもしっかりと枝に掴まり、満開に咲き誇る桜が暖かく迎えてくれました。

船山会長は、農林水産省などが今年度から創設し実施した「第一回美の里づくりコンクール」の審査員の御一人でもあります。このコンクールにおいて、当町の椹平の棚田の保全活動が、農林水産省農村振興局長賞に選ばれました。この椹平の棚田保全活動を強力に推薦してくださった御一人が、船山会長だったのです。

「こういう風景があったんだねえ」としみじみと話され、しばらくその場に立ち尽くし、じっと辺りの風景を眺めておられました。

霞に煙る朝日岳、水量を湛えて優雅に蛇行する最上川。そして扇状に広がる椹平の棚田。それは遠い昔から変わらぬ、人々の生活の香りが漂った風景でした。

耕運機が田を耕すと、乾いた土が湿った黒い土へと変わっていく。一区画が見る見るうちに黒土へと変わっていきました。「もう、終わったんだねえ…」。何か遠い日の思い出を眺めるような船山会長の言葉に、現代の日本人が失った「生きる時間」の意味を考えさせられました。

朝日町長　鈴木浩幸

合併浄化槽設置を支援します！

合併浄化槽による生活排水等の水洗化対策。住民のみなさんのご理解もあり、これまで1,080基の浄化槽が設置されました。その結果、平成18年３月末日現在での町全体の水洗化率は60.8％となりました。平成18年度以降についても新たな推進策を設け、住民のみなさんに設置を呼びかけていくことにしています。

なお、支援内容については次のとおりです。

１．設置補助金
- ５人槽　550,000円
- ７人槽　680,000円
- 10人槽　950,000円
- 11～20人槽　1,044,000円
- 21～30人槽　1,752,000円
- 31～50人槽　2,340,000円
- 51人槽以上　2,670,000円

２．合併浄化槽切替補助金
（単独処理→合併処理）
１基当たり50,000円を加算

３．放流ポンプ槽設置補助金
補助金額は基準額の５分の４

４．奨励金
①若者定住奨励金　50,000円
※条件
合併処理浄化槽を設置した年度において、夫婦の一方が40歳未満、または18歳以下の扶養者が１名以上の世帯
②転入者奨励金　200,000円（新規）
※条件
合併処理浄化槽を設置した年度において転入した世帯

５．利子補給
１世帯100万円まで、償還期間60ヵ月以内の融資に係る３％までの利子を町が負担

６．放流管原材料支給
放流管（口径100㎜、塩ビ薄肉管）が10ｍを超えた部分に、１ｍ当たり400円を支給

問役場建設水道課整備係　☎６７－２１１５

第２期が始動　平成のＲＩＮＧＯ（リンゴ）ＰＪ（プロジェクト）vol.6

平成17年度から始まった朝日町平成のＲＩＮＧＯプロジェクトも２年目を向かえ、食肉加工派遣研修に参加している研修生は、引き続き㈲一関ミートで研修を重ねています。

町内での研修については、現在研修プログラムを作成中であり、近日中に概要をお知らせしながら、第２期生の募集を行っていきます。第１期生については引き続き、起業・多角化経営の実現に向けた研修を行っていきます。起業家をめざしている方、多角化経営を考えている方、ぜひご相談ください。

問ＲＩＮＧＯプロジェクト事務局（役場産業振興課産業促進係内）☎67-2113
ＵＲＬ　http://www.asahi-ringo.net/

キリッとした装いの男性陣

成人を祝い威勢良く鏡割り

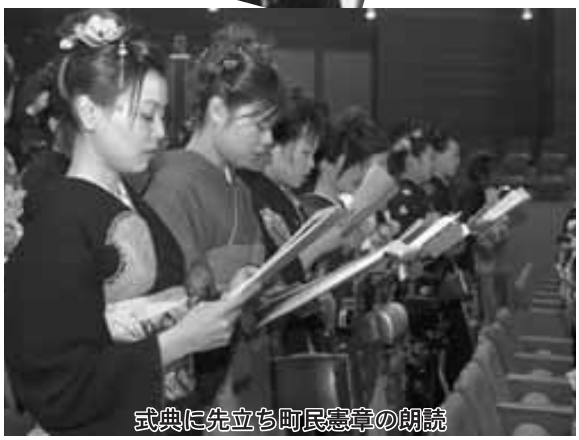
カメラさんぽ

朝日町成人式

好天に恵まれた４月29日、朝日町の成人式が創遊館ホールで開催されました。今年晴れて成人を迎える人は、男性60人、女性68人の計128人。大型連休を利用して帰省した人も多く、全体の73.4％に当たる94人が出席しました。

まぶしいほどの衣装を身にまとった新成人たち。友人との久方ぶりの再会に胸を躍らせ写真を撮ったり、中学生の時にお世話になった先生方と当時のことを懐かしんだり様々。会場は、若さとパワーに満ちあふれていました。

着物姿も艶やかな女性陣


式典に先立ち町民憲章の朗読

オリジナルラベルのワインが
町から贈られた

満開の桜と鯉のぼり？
（5月3日）

まちの話題

朝日町戦没者追悼式
（5月9日／創遊館）」

①浮嶋稲荷神社例大祭（5月5日／大沼地内）

神秘的な雅楽の音色とともに

今年一年の五穀豊穣と商売繁盛を願う「浮嶋稲荷神社例大祭」が５月５日、同神社のある大沼地内で開催されました。

午前10時の花火の音とともに、現代によみがえった平安絵巻を感じさせる行列が、心に響くホラ貝と神秘的な大沼雅楽の音色を先頭に社務所「大行院」を出発。村内約１キロの道のりをゆっくりと進んでいきました。行列の到着を待つ神社境内では、地区内の小中学生８人が演ずる力強い和太鼓が鳴り響き、祭の雰囲気は最高潮に…。

沿道にはいまだに雪が残る今年。時折舞い散る桜の花びらが、行列の情調をよりいっそう引き立てていました。

②新入生に防犯ブザー贈る（4月19日／町内小学校）

左手前が多田会長

朝日ロータリークラブ初めての取り組み

奉仕の心で地域に貢献しようと活動している朝日ロータリークラブ（多田清一会長）が、今年入学したばかりの町内の１年生55人全員に防犯ブザーを贈りました。

町の将来を担う子どもたちに、当クラブとして今できることは何かを模索していた時、宮宿小学校の小林道和校長を講師に迎えての講演会がきっかけで実現したという今回の活動。４月19日に宮宿小学校を訪れた多田会長ら３人は、「みなさんの登下校時の声が地域のみんなに元気を与えている。これからも元気いっぱい登校してください」と話し、代表して足助瑞樹君（大町）と會田春菜ちゃん（元町）の二人に、携帯ストラップが付いた手のひらサイズの防犯ブザーを手渡しました。

「こんなにも早く対応してくださるとは思わなかった。感謝しています」とお礼を述べた小林校長。多田会長は「今後も毎年継続していく活動にしたい」と語ってくれました。

③三浦隆典木版画展（4月7日～／あとりえマサト）木版画体験教室（4月16日／同所）

三浦隆典さん（右）から手ほどきを受ける参加者たち

完成した版画で灯籠を作る

「朝日川と木版画の灯」と称した木版画のワークショップ（体験教室）が４月16日、版画家の三浦隆典氏を講師にあとりえマサト（町教育研究所立木研修センター＝旧立木小学校）で行われ、地元の小学生ら地区民や東北芸術工科大学の学生たち合わせて30人余りが、版画制作を楽しみました。

作品の素材となる土筆（つくし）や甘草（かんぞう）といった春のかけらを探しにいこうと、まずはスケッチに出かけた参加者たち。その後、縦横約20センチほどの木版にスケッチした素材を彫刻刀で彫り込み、専用に漉（す）いてもらった深山和紙に版画。それを直径10センチほどの筒状に貼り合わせ灯籠の傘となる部分を作り上げました。

白熱球の熱が上昇する際に起こる気流を利用して傘を回す仕組み。完成した灯籠は、階段や廊下、体育館などに設置され、やさしく回り続ける灯籠の明かりが参加者たちの心を和ませていました。

また、昨年11月に引き続き今回が２回目となる三浦氏木版画展が、４月７日から17日間、同所で開催されました。

完成した灯籠

⑤国道287号沿いに新たな産直施設

「産直和合」と「山直中沢」

正式オープンを６月中旬に控える産直和合

試食コーナーが売りの山直中沢

山が好きで、春の山菜シーズンから秋のきのこシーズンまで、ほぼ毎日山に入っているという木村隆一さん（大江町）が４月23日、サテライト朝日付近に産直施設をと「山直中沢」をオープン。ここの売りは、店頭で販売しているものをその場で簡単に調理し味わってもらおうという「試食コーナー」を設けていること。この日も、宮城や青森、神奈川からのお客さんが、旬の味を満喫していました。

また、農協の生産組織部会22団体と町内の45個人が集まり産直和合運営協議会（菅井勝四郎代表）を立ち上げ、これまで準備を重ねてきた「産直和合」が、４月30日仮オープンしました。これから山菜が旬の時期に入るため、正式なオープンを前に仮オープンさせたもの。約420坪（1,400㎡）の用地を国道沿いに取得。同敷地内に約44坪の丸太小屋風平屋建ての店舗（駐車場完備）を、６月中旬頃をめどに正式にオープンさせる予定です。

④りんごの樹オーナー制開園式（5月7日／秋葉山交遊館～園地）

収穫までの工程を体験

町特産のりんご（ふじ）を町内外にＰＲする目的で、樹１本５万円で毎年オーナーを募集している「りんごの樹オーナー制」。ちょうど10年目を迎える今年。遠くは大阪など、13人の新たなオーナーを含む54人のオーナーから全部で55口の申し込みがあり、秋葉山交遊館で５月７日に行われた開園式には、その家族ら約150人が参加しました。園主は、今年も白田富彦さん（大谷三）、志藤修治さん（栗木沢）、遠藤喜由さん（同）、遠藤克則さん（同）の４人。白田さんは「園地にいかに数多くの足跡を付けるかで収穫も決まります」と語り、オーナーたちに収穫までの作業工程に向けたエールを送りました。

りんごの樹の抽選を行った後、さっそく園地へ足を運び樹の確認。例年になく樹の生育が遅れているため、予定されていた摘花作業はできなかったものの、自分の樹を見つめるそのまなざしは、秋の収穫に向けた意気込みであふれていました。

オーナーになって８年
「なかなか先生にはなれません」と語る小野寺さんご家族（仙台市）

みんなのひろば

今輝いて

成人式実行委員会

委員長 鈴木希衣子さん（元町）

今日、私たちは成人式を迎えることができました。この二十年、様々なことがあったと思いますが、これまでにたくさんの人々の教えや助けがあったからこそ、今の自分があると思います。両親、先生方、地域の人々、友だち、本当にありがとうございました。そして、生まれ育った朝日町。この豊かな自然に恵まれたことを誇りに思います。これからも末永く見守っていただけたらと思います。

さて、私たちは成人式を迎え、社会的に大人の一員として認められるようになりました。でも、大人として認められるようになっても、まだまだ未熟です。十代から二十代になっても、何の変化もない日々かもしれません。時には、未熟さから大人としての扱いから逃げ出したくなることもあるかと思います。しかし、逃げてばかりでは何の成長もありません。辛いことや苦しいことがあっても、目の前にある現実を真剣に見つめしっかりと受け止めていくことにより、一歩一歩成長し大人になっていくのではないかと思います。

これから先、どんなことが待ちかまえているのか誰にもわかりません。しかし、人生は一度きりです。だからこそ、自分を信じ、責任と自覚を持ち、これからの人生を確実なものとして歩んでいく必要があるのです。途中、壁にぶち当たり、つまずき、悩む時があるかもしれません。そんな時は、両親、先生方、そして小学校、中学校から一緒に学び助け合ってきた仲間がいることを思い出しましょう。

一人で生きようとせず、人を信じ、自分を愛して、人として人間として仲間と助け合い『絆』を深めながら、美しく輝いていきたいと思います。

各種大会の成績

（○内数字は順位）

■第28回朝日町長杯争奪剣道錬成大会【4月29日／町民体育館／参加チーム150チーム／参加者900人】

▽小学男子の部①振武館（福島）②本荘剣友会（秋田）③天童北部（天童市）③吉成剣友会（宮城）

▽小学女子の部①舞鶴剣道（天童市）②本荘剣友会（秋田）③本楯剣志会（酒田市）③蚕桑剣道（白鷹町）

▽中学男子の部①山形大学附属中（山形市）②余目武道館（庄内町）③恵迪館（福島）③山形第二中（山形市）

▽中学女子の部①山形第三中（山形市）②山形大学附属中（山形市）③藤島中（鶴岡市）③朝日中（朝日町）

■豊龍神社祭典奉納柔道大会【5月3日／町民体育館／参加チーム31チーム／参加者171人】

▽小学生の部①高槻道場A（山形市）②仙台練心会（宮城県亘理町）③中山柔道スポ少A（中山町）③大和柔道愛好会（宮城県大和町）

▽中学女子の部①仙台練心会（宮城県亘理町）②高槻道場（山形市）③大和柔道愛好会（宮城県大和町）③朝日中（朝日町）

▽中学男子の部①高槻道場（山形市）②小野田中A（宮城県加美町）③大和柔道愛好会A（宮城県大和町）③ほなみ柔道スポ少A（山形市）

四ノ沢／石塚公貴（ひろき）さん 照美（てるみ）さん

さわやか新婚さん

二人が出会うきっかけとなったのは、公貴さんと同じ職場で働く照美さんのお姉さんが二人の仲を取り持ったこと。当然のことながら、公貴さんが義理の弟になることも視野に入れての行動だったに違いありません。当時を振り返ってのお互いの印象は、「予定が入っていても無理を言う私に合わせてくれる。そんな“ヒロ君”の優しさを当初から感じていました」と話す照美さんと、「力仕事に従事する私の体を常に気遣ってくれる“テル”の思いやりがうれしい」と話す公貴さん。それから互いに愛を育み合うこと約１年。「俺は石塚家の長男として家族と離れて暮らすわけにはいかない。いきなり家庭に入ることでたいへんなことも多いと思うが、やれる限りのことはするから付いてきてほしい！」照美さんのことを思いやる優しい気持ちが節々に伺える公貴さんのプロポーズ。「この人になら付いて行ける！」と、照美さんも迷わず結婚を決意したそうです。

休日は、一緒に台所に立って料理をすることが楽しみだとか。中でも特製餃子がお勧めとのこと。どこが特製なのという質問に、「貴重な二人の時間をじっくりと優しく包み込むところかな」。

平成19年度開通予定の新岩坂橋。４世代家族渡り初め実現に向けて、最低でも２人はほしいという子どもの誕生が、当面の目標だそうです。

今月の新刊

おすすめ本！

石に言葉を教える

石に言葉を教える～壊れる日本人への処方箋～　柳田　邦男　著

壊れる脳、成長しない心…。現代人の感覚麻痺が深刻化する中で、「言葉と心」「言葉といのち」をどう考えたらよいのか。ＩＴ改革で人生の指針を失った国の活路を示す書。

滅びゆく国家～日本はどこに向かうのか～　立花　隆　著

小泉改革、天皇制、新憲法、中国問題、防衛問題、ライブドア事件、耐震構造偽装事件…。劇場化して歪んでいくニッポンの政治・社会・経済・外交に、知の巨人・立花隆が鋭く斬り込む。

木もれ陽の街で　諸田　玲子　著

なにかを捨てなければ手に入らないものが、この世にはある。たとえば…。昭和20年代半ば。荻窪に住み、丸の内大手商社医務室に勤務する女性の恋模様を通して、あの頃の「昭和」を透明感一杯に描く、著者初の現代小説。

町長選挙　奥田　英朗　著

離島に赴任した精神科医の伊良部。そこは、島を二分して争われる町長選挙の真っ最中だった。伊良部もその騒動に巻き込まれてしまい…。「空中ブランコ」「イン・ザ・プール」でお馴染みのトンデモ精神科医の暴走ぶり健在。

▼嫁盗み（逢坂　剛）▼恋はさじ加減（平　安寿子）▼イルカ（よしもとばなな）▼恋愛事情（藤田宜永）▼雲を斬る（池永　陽）▼犬のしっぽを撫でながら（小川洋子）▼ゆりかごで眠れ（垣根涼介）▼道路の決着（猪瀬直樹）▼国家の品格（藤原正彦）▼いのちとユーモアー鎌田實と１１人の対話ー（鎌田　實）▼もったいないー対訳英文付ー（プラネット・リンク）▼ヒストリアン　１、２（エリザベス・コストヴァ）▼柳生双剣士（多田容子）▼背負い富士（山本一力）▼刑事の墓場（首藤瓜於）▼栄光なき凱旋　上　下（真保裕一）▼人口減少で読み解く時代ー輝く社会と人生のデザインー（土堤内昭雄）▼新幹線に乗れないー農薬被爆列島ー（長谷川　熙）

町民の声

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。

町に対する意見や要望、提案みなさんの周りでの出来事や話題、日頃感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

■あて先／〒990－1442　朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場 政策推進課 地域情報係
（電話：67－2112　ﾌｧｯｸｽ：67－2117）
■Ｅメール／kikaku@town.asahi.yamagata.jp
■ＵＲＬ／http://www.town.asahi.yamagata.jp
■携帯電話向けサイト「モバイル朝日町」／http://www.town.asahi.yamagata.jp/keitai/index.html

行財政改革の前に現実を踏まえる必要性は？

行 財政改革大綱の具体的な実施計画「集中改革プラン」が広報あさひまち4月号に掲載されていましたが、はっきり言ってがっかりしました。いくら改革とは言え、マイナス思考でしか考えられません。

町独自の収入がないのに、いくら職員を減らすことで人件費を削減しても追いつかないのではないですか？

町の将来を担う人づくりなどと言いながら、子どもにとって大切な学校給食を、現在のような「自校給食」から「民間委託」あるいは「センター方式」にするのは反対です。

病院の給食についても同様です。病院経営が赤字なら、患者が来てくれるような病院にすればいいのに、最も評判の良い給食を民間委託してしまえば、今後ますます来院者は減ると思います。

もっと現実を見つめ直すことが必要なのではありませんか。

【46歳匿名】

地 方分権一括法（平成12年施行）により、今の地方自治体に求められているのは、分権がもたらす効果を住民が実感できるような行政運営を行うことです。今後ますます高度化、多様化していく住民ニーズに適切な対応をしていくためには、これまでの歳出の構造を抜本的に見直すことが必要です。財政の自由度を高め、持続可能な財政運営と効率的な行政体制を確立していくことが求められています。

このような理由から、まずもって「行財政改革の必要性」についてはご理解いただけるものと思います。

さて、この集中改革プランは、庁舎内部で検討されたそれぞれの改革項目を、民間の方々で組織する町長の諮問機関「町行財政改革推進審議会（多田賢司会長）」で更にご審議いただいたものです。その中の歳出構造の抜本的な見直し事項の中に、学校や病院における給食業務も含まれていることをご理解ください。

しかし、集中改革プランの実施にあたっては、行政サービスの低下を招くことのないよう十分に検討を重ね、事前に町民のみなさんに説明を行い進めていく予定です。

また、民間委託あるいはセンター方式が、行政サービスの低下を招くというイメージを持たれる方が多いのではと思いますが、極力そういったことにならないよう事前の工夫と事後の評価を加えながら進めていく考えであることを申し添えます。

今回のようなご意見もあるということを念頭に置きながら、最小の経費で最大の効果をめざすべく行財政改革を進めていきたい考えです。

【総務課】

地方分権ってなあに？

戦後、新しい地方自治制度がつくられ、国から独立した地方自治体が地域の行政を担うことになりました。しかし、中央集権的な仕組みによって国からの縛りを受けていたため、自治体が主体性を発揮できる余地は極めて限られていました。

今日、国際化、少子高齢化が進む中で、国民のニーズや価値観も多様化、流動化しています。

これまでのように、国が一律の基準で全国統一的に行政を進めるという方法では的確に対応できなくなってきており、地方自治体が地域課題の解決や地域づくりに対して主体的に取り組めるよう、地方分権を進めていくことが必要となっています。

職員の迅速で親切な対応に感謝します

飼 い主不明の犬が先日、自宅に迷い込んできました。私は方々へ電話をし飼い主を捜しましたが分かりませんでした。今後の対応などについて、役場へ聞けば分かるものと思い電話をしたものの、あいにくその日は休業日。お役所的な対応しかならないものと思っていたところ、日直の職員が手を尽くし調べてくれ

ました。飼い主は分かりませんでしたが、犬一匹のことに迅速かつ親切に対応してくれた日直の方にお礼を申し上げたくペンを執りました。ありがとうございました。

今後も、全職員がこうした姿勢で対応してほしいものです。

【遠藤貞悦さん】

当然の対応とは言え、こういった声をいただけたこと、たいへん嬉しく思います。

なお、今回の声に甘んじることなく初心に返り、今後も全職員が迅速かつ的確に対応していけるよう、職務に専念してまいります。**【総務課】**

四月第一日曜日は上野公園西郷隆盛銅像前にお越しください

現在東京に住んでいる村山五朗と申します。朝日町大滝の出身です。

五月三日の豊龍神社祭礼の頃には、桜花も散り去ることかと思いますが、東京上野公園のソメイヨシノ桜は、御地より一ヵ月は早く四月の第一日曜日には散ってしまいます。

今年は何とか持ちまして、上郷小学校同窓生による「花見の会」を催すことができました。例年なら三十五人程集まるのですが、今年は朝の内雨がパラついたせいか二十二人だけの参加でした。

十数年続いている上郷小学校同窓生による「花見の会」は、連絡なしの四月第一日曜日と決め、午前十時三十分から正午まで、上野駅近くの西郷隆盛銅像前を集合地とし、『山形県上郷小学校』ののぼりを立てて参加者を待っています。

年齢層は広く、私たちを先頭に十数年の差があります。田舎の屋号などを頼りに兄弟姉妹の名を挙げ、懐かしく幼き日々を過ごした想いを起こし、楽しい一日を過ごします。会費はなく話題を持ち寄ります。中には、土筆のおひたしや菜の花のゴマあえなど、心のこもった温かいものもいただけ、話も弾みアッという間の一日が過ぎ去ります。

都会での必死の生活の中で、こうした一日がストレスの解消にもなります。

朝日町を愛し、郷土でご尽力なさっているお兄さんお姉さん。もし甥ごさん姪ごさんが関東近辺にお住まいでしたら、毎年四月第一日曜日、上野公園西郷隆盛銅像前に行ってみるようお勧めください。きっと懐かしい思い出ができると信じています。上郷小学校に限らず朝日町全域に呼びかけを広げ、たくさんの方々の参加者が集う会となることを望んでいます。

【村山五朗さん（東京都荒川区在住）】

今年の花見の会（4月2日／東京上野公園）

戸籍のまど

平成18年(2006年)
■4月1日～4月30日届出

すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
太郎二	長岡大空	男	信俊・和子
舟渡	遠藤美咲樹	女	直裕・睦美
四ノ沢	渡辺皇紫	男	章平・知子
緑町	千葉寛明	男	大志・洋子
助ノ巻	伊藤遥香	女	正昭・千恵子

おしあわせに

阿部洋介（寒河江市）　小松沙緒里（八ツ沼）

やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
明鏡荘	大沼實	本人
前田沢	今井俊助	本人
大谷三	小野眞美	幸浩
夏草	齊藤久子	宇八
大谷二	佐々木欽三	辰一
小原	清野良治	泰助
本町	佐藤ちゆう	武晴

人口と世帯数

●平成18年4月30日現在

人口	8,708人（減3人）
男	4,312人（減4人）
女	4,396人（増1人）
世帯数	2,557戸（増1戸）

（　）内　前月比

■広報あさひまち　第594号　平成18年5月15日発行　■発行 山形県朝日町　■編集 朝日町広報委員会/山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷 最上印刷株式会社

朝日町フォトコンテスト

この町には「自然」「歴史・文化」「人」など、ふるさとを感じさせる宝物のような風景が数多く残っています。昭和29年11月に合併し一昨年50周年を迎えた朝日町。これを記念し「今残したいふるさとの宝」をテーマに募集したものの中から、選りすぐりの作品を紹介します。

入選「幻想」

この写真は、紅葉の頃、朝日連峰の中ツルコースの長命水付近で撮ったものです。濃い霧がかかって、あいにくの天候でしたが、そのおかげでめったに見られない幻想的な風景に遭遇することができました。

もっと待っていれば、さらに良い風景を撮ることができたかもしれませんが、悪天候のため急ぎ足の中で撮った写真です。

山の自然は、下界では見られない素晴らしい風景が多く、これからも写真に収めていきたいです。

撮影者　柴田昌己さん（宇津野）

春夏秋冬　編集後記

▽五月のゴールデンウィークに入っても、桜の花が満開だった今年。例年であれば、四月の下旬ともなると、完全に葉桜の状態になっているはずです。昨年の成人式を思い起こすと、四月二十九日で創遊館前の桜は満開でした。そこで写真を撮らせてもらった記憶が、今も鮮明に残っています。ですから、開花が遅れた昨年と比較しても、今年は更に遅れたことになります。▽車窓を全開にして走っても全く気にならない、正に春真っ盛り。眩しすぎるほどの日差しに少しだけ目を覆った時、話しかけてくるように咲くタンポポの花を見つけました。疲れ切った体に、何かしらのパワーをもらった、そんな感じです。▽遠くの山肌から時折顔をのぞかせる残雪の大朝日。山々の新緑と青空とのコントラストがとても鮮明で、天気が良ければ一年で最もきれいに見える時期かもしれません。

おかえりと 駆け寄るその手に
タンポポの花

（はやけん）

広報「あさひまち」は再生紙を使用しています。